

《担当者名》 幸村 近 坊垣暁之

【概要】

臨床病態学ではさまざまな疾患の病態を学び、臨床症状と臨床検査を通じて診断に至る過程を臓器系統別に理解する。さらに治療方針決定や治療後の経過と臨床検査の関わりについても詳しく学ぶ。臨床病態学では、神経・運動器・感覚器疾患、腎・尿路疾患、体液・電解質・酸-塩基平衡異常、代謝・栄養障害、染色体・遺伝子異常症などについて、主要疾患の臨床症状および診断・治療における臨床検査の役割を理解する。またRCPC (reversed clinico-pathological conference) を行い、実際の症例における基本的検査データを系統的に解析することにより病態を把握する能力を養う。

【学修目標】

- 1) さまざまな疾患の病態を学び、臨床症状と臨床検査を通じて診断に至る過程を臓器系統別に理解する。
- 2) 治療方針決定や治療後の経過と臨床検査の関わりについて理解する。
- 3) 臨床検査の意義や臨床上の意思決定における検査情報の活用法について説明できる。
- 4) 主要な神経・運動器・感覚器疾患について臨床症状および診断・治療における臨床検査の役割を説明できる。
- 5) 主要な腎・尿路疾患について臨床症状および診断・治療における臨床検査の役割を説明できる。
- 6) 主要な腎・尿路疾患について臨床症状および診断・治療における臨床検査の役割を説明できる。
- 7) 主要な体液・電解質・酸-塩基平衡異常について臨床症状および診断・治療における臨床検査の役割を説明できる。
- 8) 主要な代謝・栄養障害について臨床症状および診断・治療における臨床検査の役割を説明できる
- 9) 主要な染色体・遺伝子異常症について臨床症状および診断・治療における臨床検査の役割を説明できる
- 10) RCPCを行い、実際の症例における基本的検査データを系統的に解析することにより病態を把握する能力を養う。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	神経・運動器・感覚器疾患 1	脳疾患、神経疾患、筋疾患 教科書：第1編第11章、第2編第12章	幸村 近
2	神経・運動器・感覚器疾患 2	骨疾患、感覚器疾患 教科書：第1編第11・14章、第2編第12・15章	幸村 近
3	腎・尿路疾患 1	腎疾患 教科書：第1編第9章、第2編第10章	幸村 近
4	腎・尿路疾患 2	尿路疾患、男性生殖器疾患 教科書：第1編第9章、第2編第10章	幸村 近
5	体液・電解質・酸-塩基平衡異常	体液・電解質・酸-塩基平衡異常 教科書：第2編第11章	幸村 近
6	代謝・栄養障害	栄養障害、糖代謝異常 教科書 241～251、408～411ページ	坊垣暁之
7	代謝・栄養障害	脂質代謝異常、蛋白代謝異常 教科書 251～255、411～416ページ	坊垣暁之
8	代謝・栄養障害	尿酸代謝異常、ビタミン代謝異常、鉄代謝異常 教科書 255～258、416～421ページ	坊垣暁之
9	代謝・栄養障害	先天性代謝異常 教科書 258～265ページ	坊垣暁之
10	染色体・遺伝子異常症	先天性疾患 教科書 279～281、429～432ページ	坊垣暁之
11	RCPC解説	病歴や身体所見の情報なしで、日常診療上のルーチン検査所見のみから病態を推論する教育手法の一つであるRCPC (reversed clinico-pathological conference) について理解し、実際にRCPCを行うための手順を身に付ける。	幸村 近 坊垣暁之
12	RCPC1	症例1について検査データを示し、病態に関連する複数検査値の組み合わせを分析し解釈することで、病態を読み解く訓練を行う(グループワーク)。	幸村 近 坊垣暁之
13	RCPC1	同上	幸村 近

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
			坊垣暁之
14	RCPC2	症例2について、検査データを時系列の変化で示し、病態に関連する複数検査値の組み合わせがどう変動するかを分析し解釈することで、刻々と変化していく病態を読み解く訓練を行う（グループワーク）。	幸村 近 坊垣暁之
15	RCPC2	同上	幸村 近 坊垣暁之

【授業実施形態】

面接授業と遠隔授業の併用

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【評価方法】

定期試験 80% 小テスト・レポート 20%

【教科書】

奈良信雄・高木康・和田隆志 編著 「最新臨床検査学講座 臨床医学総論 / 臨床検査医学総論」 医歯薬出版株式会社 2015年

指定の教科書に加え、必要に応じて学習プリントを配布する。

【参考書】

矢富裕・横田浩充監修、小山高敏・戸塚実 編集 「標準臨床検査学 シリーズ 臨床医学総論（臨床医学総論、放射性同位元素検査技術学、医用工学概論、情報科学・医療情報学、公衆衛生学）」 医学書院 2013年

矢富裕・横田浩充監修、矢富裕 編集 「標準臨床検査学 シリーズ 臨床検査医学総論」 医学書院 2012年

佐藤良暢 監修、勝田逸郎・松本禎之 編集 「臨床病態学（改訂第4版）」 南江堂 2011年4月

河合忠 監修、山田俊幸・本田孝行 編集 「異常値の出るメカニズム（第7版）」 医学書院 2018年

米川修・松尾収二監修、森田薫・有田卓人編集 「臨床病理レビュー特集第155号 Reversed CPC 臨床検査による診察作法を身につける 患者さんから学ぶ検査の読み方・考え方」 克誠堂出版 2016年

【備考】

クリッカーを使用した双方向対話型教育を行う。

アクティブ・ラーニングとして第12～15回のRCPCではグループワークを行う。

【学修の準備】

各回の授業内容および学習課題について、教科書の該当ページを事前に読んでおくこと（80分）

復習は、教科書や配布資料を活用し、学習を深めること（80分）

【ディプロマポリシーとの関連性】

（DP1）生命の尊重を基盤とした豊かな人間性、幅広い教養、高い倫理観を身につけている。

（DP2）臨床検査に必要な知識と技術を習得し、先進・高度化する医療に対応できる実践能力を身につけている。

【実務経験】

幸村 近（医師）、坊垣暁之（医師）

【実務経験を活かした教育内容】

医療機関での実務経験を活かし、臨床病態の理解・把握における臨床検査の意義、重要性、その他具体的な実践について講義する。